

詩編 第89編 1節

「私は、主の恵みを、とこしえに歌います。あなたの真実を代々限りなく私の口で知らせます。」

他の誰でもない、私は、と言い放ちます。他の人はそうはしないかもしれない。むしろ、主を攻撃し、排除するかもしれない。しかし、私は、と自分の立場を定めます。それは、主の恵みを知っているからです。私は、主の恵みを体験する者です。誰もこのことを否定することは出来ません。恵み体験者である私を否定出来ません。

主の恵みを、私は、とこしえに歌います。主の恵みは日々注がれ、この日々のうちに既にとこしえの恵みを味わっています。私の歌は絶えるときがありません。だから、私の歌が生まれる喉が硬くなり、閉じることはないのです。ここに宿る主の恵みへの歌が、いつもしなやかな喉を通り歌となるのです。主の恵み体験こそ、私の魂の底からのヴォイストレーニングとなります。

主の恵みを、とこしえに歌う者は歌いながら、主の真実に深く捉えられてゆきます。その真実は時代を貫き、代々限りなく真実です。だから、私は、主の恵みをとこしえに歌うばかりか、あなたの真実を私の口で知らせます、と宣言します。主の恵み体験を自分の出来事だけにせず、その真実を公に語り伝えます。恵みの喉、口で。